総義歯が上手いと言われる為には

石川功和

総義歯の難しさは基準の無い所から作業を始めなければならないところにある。それは言い換えれば術者の技量、知識に負う所が多いとも言える。

総義歯を必要とする患者は高齢者が多く、これから装着する総義歯に対する期待も有歯顎の補綴をする患者の期待度にくらべ大きい。その期待に応えるべく技工士は歯科医共々その技術、知識の研鑽に励まなければならない。

総義歯装着の目的の一つである咀嚼機能の回復は人工歯の咬合面形態（解剖学的、機能的）、大きさ、その排列位置に負うところが大きい。しかし、その咬合関係を保持するための義歯床自体の維持が成されていなければならない。また、安定した咬合関係を得るためには顎位、適切な咬合高径の設定がなければならない。

それでは我々技工士は歯科医師と共同で、患者に受け入れられる、喜ばれる総義歯を作るためにはどのようにすれば良いだろう。

初診時から、装着まで総義歯制作には数多くの行程があるが、大きく分けて診療室における作業、技工サイドと分けられる。より良い、患者に受け入れられる総義歯を作るためにはそれぞれの行程を理解し作業を行って行く必要がある。

それらを踏まえた上で今回は、総義歯のうまい技工士といわれる為にはどのような事が必要かを皆さんと考えてみたい。

略歴

石川功和　イシカワヨシカズ

Ishikawa Yoshikazu

1974 年	3 月	日本大学歯学部附属歯科技工専門学校卒
	職	歴
1974 年	4 月	村岡歯科勤務
1993 年	9 月	村岡歯科退職
1993 年	10 月	ＩＡＣ開業　現在に至る
2017 年	7 月	東京都歯科技工士会会長　現在に至る
2017 年	6 月	日本歯科審美学会副理事長　現在に至る
2022 年	6 月	日本歯科技工学会会長　現在に至る
2022 年	6 月	日本歯科技工士会常務理事　現在に至る

＜所属学会＞

日本歯科審美学会

日本歯科技工学会

日本デジタル歯科学会

社会歯科学会

日本顎咬合学会

＜講演概要＞

『デジタル化がすすむ歯科業界で、歯科技工士はどこに向かうべきなのか』

新型コロナ禍により国民の働き方は多様化し、オンライン会議で自分の顔を直視する機会が増え、歯並びへの意識の高まりとともに透明で目立たず自由に取り外しができるアライナー矯正が急速に広がっていきました。また金属代高騰の影響により時間をあまりかけずに CAD/CAM インレーが保険収載されました。さらには、本年 6 月に口腔内スキャナーも保険算定ルールに取り込まれ、歯科業界も時代の流れに合わせて時々刻々と変化しています。本日の講演では、デジタル化などの動きを踏まえながら国内外の歯科業界の動向を俯瞰するとともに、その業界動向の流れに対して今後、歯科技工士はどのように関わっていくべきなのか、という視点で講演させて頂きます。どうぞよろしくお願い致します。

＜講演者略歴＞

高崎 宏之

世界 56 カ国 200 都市以上に拠点を持つ世界最大のコンサルティングファーム、accenture 社を経て現職。同社では戦略グループに所属し、フォーチュン・グローバル 500 に選ばれる企業を中心に、経営コンサルティングサービスを提供。製薬、医療機器、消費財、産業機械、総合商社、官公庁、化粧品業界などに精通し、新規事業の立上げ、海外展開支援、M＆A、PMI、中期経営計画策定、営業改革、グローバル人事組織設計などのコンサルティング業務に従事。同社退職後、医療業界で徹底的な顧客目線に根差した、世界に通じる革新的で高品質な事業・サービスを創出したいとの想いからアクウェスト株式会社（本社：東京都渋谷区）を設立。現在は、京都大学で教鞭をとる傍ら、東京都歯科技工士会の顧問を務めている。京都大学大学院 理学研究科修了　理学博士（宇宙物理学）

京都大学生存圏研究所　特任准教授（現職）

東京都歯科技工士会 顧問（現職）

【所属学会・ワーキンググループ】

日本再生医療学会

日本医学ジャーナリスト協会

日本天文学会

日本航空宇宙学会

ニュースペース国際戦略研究所

日本ビジネスモデル学会